

事業報告書

事業名 青梅織物夜具地の歴史を探る



- 1 実施団体 青梅夜具地 夕日色の会
- 2 担当課 文化課郷土博物館
- 3 実施時期 平成24年8月1日～平成25年2月28日
- 4 参加者 青梅市民約600人
- 5 実施場所 青梅市全域
- 6 事業の目的 青梅織物が地域に果たした役割とその経緯をたどり織物文化を次世代に伝えていくため諸活動を行う
- 7 役割分担
 - ・ 団体の役割 事業の目的にそって展示会、ワークショップ、トークセッション、聞き書きを行い、冊子「青梅織物青梅縞から青梅夜具地へ」をまとめる。
 - ・ 担当課の役割 広報おうめ、ホームページ掲載、資料提供、団体が行う会議に出席、冊子掲載のための写真撮影

8 事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

青梅織物について事業を通して広報できたこと、催物への参加者が増え、青梅の産業を伝え織物文化にふれる機会がもてた。残されている資料を読み、文献の所在が明らかになったこと。

9 目標達成

事業の目標：「青梅織物 青梅縞から青梅夜具地へ」冊子完成

目標の達成具合：目標１５０冊を上回る２００冊の冊子出来上る。

計画に盛り込んだ内容について一応完了したが一つ一つについては不十分なまま終る。資料を読み歴史に関連づけての記述やまとめ方に多くの反省がある。

10 事業の実施内容

展示会 10/1～10/27 約５００人

ワークショップ 10/7 約４０人

トークセッション 10/27 約３０人

聞き書き 約２０人

冊子「青梅織物 青梅縞から青梅夜具地へ」

11 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目	団体	担当課
(1)事前の話合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	3	3
(2)事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
(3)協働の役割分担は適切だった	2	2
(4)協働相手は適切だった	4	4
(5)対等な立場での協力関係を築けた	2	3
(6)協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
(7)事業実施は円滑になされた	2	2
(8)設定した目標が達成された	4	4
(9)協働で行うことにより効果がある事業だった	3	4
(10)今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

12 まとめ（今後の課題や改善点など）

- ・今回収集した資料、調査結果を整理し記録しておく。
- ・現存の青梅織物に関する施設、資料を写真で残す。
- ・冊子「青梅縞から青梅夜具地へ」を児童、生徒、市民に読まれ、青梅織物についての感想、意見、助言等をいただきたい。
- ・博物館に収蔵されている青梅織物に関する資料を展示し、市民及び来館者に見学の機会を設けてほしい。

13 その他

現存する資料、文献の散逸をふせぎ、所蔵する施設機関でリストを作成し、閲覧、貸し出しが出来るようにしてほしい。